



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

α 2 作動薬、NMDA拮抗薬の低体温時における脳血管反応のウィンドー法を用いた検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯田, 宏樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/506

はしがき

低体温は組織の酸素消費量を減少させ、代謝を抑制することによって虚血に対する臓器の抵抗力を増大させると報告され、頭部の重傷疾患患者の予後を改善する可能性が示唆されている。臨床において低体温状態で患者が維持されるときには、組織での酸素代謝をより抑制するために全身麻酔薬が使用され、また循環動態を保つために種々の循環作動薬が併用される。しかし、正常時における全身麻酔薬や循環作動薬の脳微小循環に与える影響は詳細に検討されているが、低体温状態での脳微小循環に与えるこれらの薬物の影響は十分に解明されているとは言い難い。また、 $\alpha 2$ 作動薬や NMDA 拮抗薬は、虚血時の脳保護における有用性が各種動物実験の結果や諸外国での臨床経験から注目を集めており、これらの薬物を低体温状態で併用した場合の脳血管の反応性も解明すべきことである。生体顕微鏡下に脳軟膜血管を *in vivo* の状態で直接観察する手技によって、低体温状態での $\alpha 2$ 作動薬や NMDA 拮抗薬の脳血管反応性を解明することによって、今後の低体温状態での患者管理において重要な情報が提供される。

今回の科学研究費、基盤研究 (C) (2) による「 $\alpha 2$ 作動薬、NMDA 拮抗薬の低体温時における脳血管反応のウィンドー法を用いた検討」の研究成果報告書はこれらに基づいて、平成 11 年度から平成 12 年度の 2 年間にわたって行った成果である。

研究組織

研究代表者 飯田宏樹 (岐阜大学医学部・助教授)
研究分担者 土肥修司 (岐阜大学医学部・教授)

研究経費

平成 11 年度 1900 千円
平成 12 年度 700 千円

計 2600 千円